

意見交換会後の知事のブリーフィングの概要

【知事】

- 今日は、1時間半にわたって濃密な議論をさせていただいた。
私からのごあいさつの後、中電さんから今日までの経過についてご報告いただき、その上で、国とのやりとり、今後の方策、需給計画などなどをご報告いただいた。東京電力への融通を止めて、武豊火力発電所の3号機発電分を上乗せしていくことで、計画停電は避けられるのではないかとということ、西日本等の融通を受けるとということ、定期点検の時期を若干ずらすことなどによって、この7月、8月、9月を乗り切りたいというお話であった。
それを受け、経済界、労働界の皆様、全員の方にご発言いただいた。
- 主な発言のご紹介をさせていただくと、何人かの方からお話があったのは、今回のことは非常に唐突だということであった。密室的な決め方ではないか、パフォーマンスではないかというご発言もあった。
そういった中で、やはり一番多かったのは、計画停電になると非常に困るということ、これは、産業界、労働界も同じであった。
そして、料金の値上げも困るということ。私が申し上げたからということがあるかもしれないが、一地方、一地域、一産業に負担をもたせるとするのはおかしい。やはり、全国民で負担すべきものだということご意見があった。
- その他、例えば、労働界のみなさんからは、雇用の問題にならないように対応してもらいたい。電力に不安があるということが消費マインドの低下につながるというおそれがないか心配だということご意見があった。
みなさんからのご意見で、節電や企業としてやれることにはもちろん協力するが、あまり我慢に我慢を重ねることが続くのもいけないので、方針を早く示していただきたいということご意見もあった。
- 自動車関係の方からは、例えば、自動車工業会が音頭を取って、木曜日、金曜日を休みにするという「輪番休日」をやった場合、土日に子どもを預けようとする、預かってくれないとか追加料金を取られるという話では困るので、そういった面を含め対応策を検討いただきたいというご意見や、JRさんや名鉄さんに対して、休日のダイヤにもご配慮いただきたいというご意見があった。前広に色々なご意見、課題等を出していただいでやっていかなければいけないと思った。
- また、色々と風評が飛び交っていて、不安の情報だけが独り歩きしているようでは困る。迅速に正確に情報提供をしてもらいたい。産業を止めないように、産業の足かせにならないようにというご意見もたくさんいただいた。
- これらの意見に対しては、本日は中部経済産業局長がオブザーバーとして出席しており、しかと受け止めさせていただきます、東京（経済産業省）にはしっかりと伝えますということであった。また、中電さんからも、正確な情報を逐一提供していきたいというご発言があった。

- 私から、最後に締め括りとして、本日はたいへん有意義な会だったということをお知らせし、毎回こういった方々にお集まりいただけるかどうかは別にしても、こういう形でできるだけお声がけをして、情報を共有し、そして、万全の対応をしていきたいということをお知らせした。
- その上で、中部経済産業局と中電さんにはっきりと申し上げたのは、国が責任を持つと言ったのだから計画停電がないのは当たり前のこととして、これだけここに来ている人がみんな言っているのであるから、石油、LNGによる火力発電を立ち上げ、電力の供給力があると言うのであれば、とにかく、1日も早く正確な情報で「安定供給宣言」をしてもらいたいと最後に言った。
例えば、自動車産業と自動車産業以外のところに部品を供給しているところがあるとすると、自動車産業の輪番休日の関係で休めなくなるわけで、非常にコストが上がるし、どうなるのか。また、電炉を使っているところだと、一旦冷やしてしまうと炉がまた熱を出すのがたいへんである。色々なことがあって計画停電だけは絶対困る、そういうことは絶対困るという意見があったので、不安感が独り歩きしてしまうのはよくないから、国が責任を持つと言っているし、中部電力も休止中の発電所をもう一度稼働させるなどといった対応策は分かっているわけだから、いつまでにこれをやるという具体的な対策を公表して、一日も早く安定供給宣言をなさいと私は言った。
- 安定供給の話に加えて、やはり費用面、コスト面の話については、どう考えても、これを我々、愛知と中部の産業界と県民だけがかぶるとするのはおかしいと思う。これは、法律に根拠もなく、国の要請に基づいて、中電が受け入れて、正常運転しているものを止めるということなのだから、その費用、コストを、当たり前のように中電で持つというのは、どう考えても理に合わないと思う。だから、国全体の枠組みの中で、どのようにやるかは色々な選択肢があるだろうから検討してもらってよいが、一日も早く出してもらいたいと言って、中部経済産業局長には言うておいた。海江田経済産業大臣にははっきり言うてあるから、早く方向を出してもらいたいと催促していたと伝えてもらいたいとお知らせした。
- いずれにしても、これを1つのスタート、きっかけにして、安定供給の目途をしっかりと作るということ、それから、費用、コスト、負担面等々についても方向性を出してもらおうということ、強く、最後、みなさんのご意見をトータルして出させていただいた。今日の会議は、これだけのみなさんに集まっただけ、全員の方に積極的に発言いただき、時間が足りないぐらいだったが、たいへん有意義だった。
- 一日も早くしっかりした方向性を出して、県民の皆様、そして、愛知県の産業界、中部の産業界の皆様へ安心してもらい、フル回転していただいて、この国難をみんなで一緒になって、日本を支えていけるように頑張りましょうということでお知らせいただいた。

【記者】

- ご意見を受けて、県として、このようなことができるのではないかと思ったことはあるか。

【知事】

- 今日は、事務方もずっといるので、今日の色々な意見を整理、精査して、対応策を検討してもらおう。

具体的には、さきほど申し上げた自動車産業の木金の輪番休日で、土日に出勤するとどうなっていくのか。例えば、保育所は市町村の話であるが、この市でやって、この市でやらないということではいけないので、それは、県が一手に引き受けて対応する。色々な課題が出てくると思う。実は、昨日、ある市長からも、自動車会社が木金を休日にして、土日に操業するということになると、色々な問題が出てくるので、ぜひご相談させていただきたいという話を聞いた。それは、全県的に広がる話だから、統一的に課題を整理して、県内市町村のみなさんに連絡をして、情報を共有して、粛々と対応していくことかと思っている。

- 他にも、例えば、節電をどうしていくか、なかなか難しいところがあり、今日は産業界からも労働界からも意見が出てきたが、あまり萎縮して、あれも止め、これも止めということになってくると、経済が萎縮してしまう。それは一番いけない。

だから、私は今回の唐突な要請に対して腹が立っている。これから愛知の産業がフル回転して、日本を支えていこうと思っているときに、先の算段もなしに、いきなり止めろということから入るから、みんな、不安な情報だけが行ってしまって、それがどれだけ景気の回復に水を差すのかということ、菅総理にも海江田大臣にもよく分かってもらわなければ困ると思う。

節電や省エネは当然やらないといけないが、それは安定供給宣言があって、では、どれくらいのことをやればいいのか、慎重に見極めながら、クールビズなどをやるのは当たり前だが、どこまでのことを県民、産業界のみなさんをお願いするかは、よくよく産業界とか労働界、今日来たみなさんに、個別にみなさんのご意見を聞いてやっていきたい。

あんまり萎縮してしまって、景気が悪くなって、沈んでしまったら、雇用の面でも響いてくる。正社員だけではなく、パートなど色々な臨時雇用の方々が、景気がぐっと悪くなってしまって雇用が失われるということになってはいけないので、そのことも含めて、色々な課題があると思うので、精査して対応していきたいと思う。

【記者】

- 安定供給宣言というのは、中部電力に出すように言われたのか。国と中電、連名で出すということか。

【知事】

○ 中電さんからやるということになるだろうが、さきほど申し上げたように、計画停電になるのは困るという話である。その不安の情報を、何とかします、何とかします、と言っているだけではいけない。不安な情報だけが独り歩きするとみんなが萎縮してしまって困るという意見が何人から出た。だから、既に手駒は持っているし、それが何かは外部の人間だってほしい分かっていてるわけだから、これ（火力発電所）をいつまでに立ち上げて、これを7月～9月の間、定期検査で止めるはずだったが時期を少しずらしてなどという事で、どのぐらいの電力が生み出されるのか。

だから、7月、8月、9月は大丈夫ですということと、西日本から250万kWの送電融通の能力があることは分かっているわけだから、国がどのぐらい融通してもらうのかを出してもらい、国と中電が早くそれを検討して、1日も早く安定供給宣言を出してもらいたい。

○ あとは、とにかくコストの面をきちっとやる。みなさんの総意として国に伝えてくれということと、みなさんと、今日、認識を共有したので、これから、電力・エネルギー対策をしっかりとやって、夏場を乗り切り、とにかく、日本の復興のために頑張るといって、最後、締めさせていただいた。

【記者】

○ 企業側から、安定供給と費用負担以外に何か国に要望してほしいという意見はあったか。

【知事】

○ やはり今のこの異常事態を早く元に戻してほしい。中電さんには、浜岡原発の防潮堤を作るなどの安全対策を、2年、3年ではなく、どんどん前倒しをして、「さすが中電」と言われるぐらい早くやってもらいたいという声は何人かからあった。

○ 国際競争力という話が出てきて、ただでさえ円高とか労働規制とかCO2とか、日本でモノづくりをやっていくのがなかなか厳しいというところに、これまでは電力だけは安定していたのに、電力・エネルギーまでという話になってくると、今回の問題が、国内産業の空洞化とか海外展開の背中を押すようなことにならないようにという意味も含めて、早く安全対策をやって、安心して、再開できるように、そういう体制を早く作ってほしいというご意見があった。

○ その他、やはり雇用や消費マインドの問題も強く出た。